

## 関連資料E 基準3に係る関連資料

No.	資料名	ページ
01	農林業関連職者との意見交換	203
02	アカデミックスキルズ 全体 完成稿	204 ※
03	実験・実習安全の手引	231 ※
04	令和3年度教員活動調査(教育活動関係)	259 ※
05	令和3年度教員活動調査(研究活動関係)	262 ※
06	学生による授業評価アンケート(総合実習・圃場実習Ⅰ・圃場実習Ⅱ)	276 ※
07	プロジェクト研究に関する履修ガイド	301
08	プロジェクト研究ループリック評価	305
09	プロジェクト研究勧めたいテーマ	306
10	プロジェクト研究指導教員一覧表	313

※サイズが大きくダウンロードに適さないファイル、非公表情報を含むファイルについてはページを省略している。



## 農林業関連職従事者との意見交換

令和4年2月2日 16:20～17:50

A201

### 1. 就職活動体験談および仕事の紹介

1) 株式会社白糸植物園 望月貴治氏 (15分)

2) 株式会社 Graceland 代表取締役 関内慎介氏 (15分)

3) 清水農業協同組合 営農部 高塚俊氏 (15分)

4) 静岡県農林技術研究所 花き生産技術科 入谷明星研究員(10分)

5) 静岡県農林技術研究所 植物保護・環境保全科 金原菜見研究員(10分)

### 2. 個別意見交換



## 1 授業科目の概要

授業科目名	プロジェクト研究	科目コード	配当年次	単位
		JTH56901J	2年	2
担当教員	(短期大学部) 全教員			

### (1) 「プロジェクト研究」の概要

本科目はいわゆる「卒論」であり、本学における学修の集大成として位置づけられ、これまでの本学での学修成果を土台に、学生各自が指導教員と設定した研究テーマ（課題）に対して主体的に学修・研究を進め、成果物（成果発表、論文）を完成させる授業科目です。通年で2単位であることから最低限60コマの履修時間が必要であり、週1コマで2年次通年の授業となります。コースや実習専攻により時間割が異なるため、時間割には記載せず、指導教員と日程や時間調整を行って実施します。本科目は定められた履修時間以外の空き時間等も有効に利用して、各自が責任をもって栽培・飼育等を行うことで調査データを取得します。ここが他の科目とプロジェクト研究との大きな違いになります。

研究テーマは、生産現場を想定した問題解決に関連したものであれば、領域、目的、手法は問いません。最終成果物は、別に定める論文の形式で提出します。また、学科全体としてのプロジェクト研究発表会を実施します。

本科目は1年間（実質は11か月）という限られた期間で栽培、飼育等をし、調査研究を進め、規定（本文10,000字以上 概ねA4版×10～12枚程度）の成果物としてまとめるため、調査研究中だけでなく、開始前の情報収集や綿密な研究計画等をしっかりと行う必要があります。

実施計画書の作成に際しては、指導教員や実習担当教員と十分相談し、試験場所も含めて調整してください。

また、事前の準備として、文章の書き方や論文のまとめ方を理解しておく必要があります。参考文献を、下記に示しました。

- 1)『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶應大学出版会、2002年
- 2)『新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書、2009年
- 3)『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』石黒圭、日本実業出版会、2013年

### (2) 到達目標

これまでの学習成果の総まとめとして、与えられた課題を解決する能力の習得を目標としています。本科目での研究活動を通して、自ら進んで学修・研究することの意義、自ら論文を仕上げた達成感、学問研究と「思い入れ」に対する「探究心」の重要性についての理解等を深めます。

本科目は、本学における学習の集大成です。本学の卒業生として十分な評価を受けるに値する論文を作成してください。

## 2 受講期間とスケジュール

### (1) 受講期間

開講時期	2021年4月
受講期間	12か月(実質11か月程度)

## (2) スケジュール

月	2~3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間スケジュール	テーマ設定 指導教員決定	研究計画策定			栽培飼育等・調査・データ整理			まとめ			発表会 発表原稿〆切	論文提出〆切	

## 3 研究活動について

### (1) 研究テーマ

「プロジェクト研究」は、農林業の生産現場におけるリーダーとしての資質を身に付けるため、現状の課題をみつけ、それを解決し、説明するという、一連の活動を通して、課題解決能力を身に付けるものです。

1年次の圃場実習等の学修を通して得た知識・技術・経験をもとに、取り組みたいテーマを考えます。短大では、20名の教員が分担して学生の指導にあたります。それぞれの教員の専門分野及び各教員が学生に勧めたいテーマを、5指導教員一覧（表2、別添）に示します。

### (2) テーマと指導教員の決定

基本的には、学生自らがテーマを考えます。担任(実習担任)とテーマについて相談しながら、テーマの守備範囲にある指導教員が指導します。また、テーマを設定するにあたり、その周辺について既存の知見を知っておく必要があります。過去の研究成果等を実習担当教員や指導教員の指導を受けながら調べ、自分の研究テーマを決めることが重要です。ただし、本学の教育内容と大きく異なったテーマは実施できません。また、指導教員については、テーマが教員の専門分野である限りにおいては、極力、学生の希望を優先しますが、一部の教員への過度な集中やテーマの内容により調整する必要があるなど、学生の希望に添えない場合があります。

### (3) 研究計画の作成

テーマが決定したら、研究の具体的な実施計画を作成します。指導教員に相談しながら、圃場試験の規模、調査方法を明確にします。また、学生は実習担当教員にも計画書を提出し、圃場の利用や管理方法等を相談する必要があります。研究計画を作成するときには、当然、具体的な試験規模や圃場マップの設計も必要となります。このとき、論文や発表会にて最終的にどのような図表を示していくのか等を想定して研究計画を設計することが重要です。

### (4) 研究の実施

コースや実習専攻、あるいはテーマにより、実施の時期、方法は様々です。指導教員や実習教員と十分相談しながら進めます。

## 4 成果の発表と評価

「プロジェクト研究」の単位は、後述する①取り組み姿勢、②発表審査、③論文審査によって評価します。

### (1) 発表会

発表会は令和4年2月中旬（2/16、17、22）を予定し、学科全体で実施します。発表会は別に定める規程により実施し、学科長から指名された短大教員は規程に基づき個々の評価をします。

### <発表会の進め方>

- 1) 発表時間は10分とし、質疑応答時間を5分とする。
- 2) 発表はPowerPointで行う。
- 3) 目的、材料および方法、結果、考察の順序で、論文の構成に沿ってプレゼンする。
- 4) 発表会にはプレゼンの他、発表要旨（A4版両面1枚、図表含む）を作成し配布する。

### (2) 論文

論文は令和4年2月末を提出〆切とします。指導教員は論文審査をします。別に定める規定により評価します。

### <プロジェクト研究論文作成要領>

- 1)用紙はA4判とし、1頁当たり字数は1行40字、30行とする。
- 2)上下余白25mm、左右余白25mm、フォントサイズ明朝体10.5ptとする。
- 3)頁番号は下部中央に記載する。
- 4)作成要領は園芸学会の「園芸学研究」に準拠する。
- 5)原則としてWordを利用し、プリントアウトとする。
- 6)完成頁数は、表紙・目次を除いて10頁（含図表等）以上を目安とする。
- 7)表紙には、提出年度、静岡県農林環境専門職大学短期大学部卒業論文、テーマ、学科・コース名、学籍番号、氏名、指導教員名を記入する。
- 8)提出の際、「発表要旨」もいっしょに綴じこむ。

### <評価基準等>

- (1) 評価の視点は、本学部の教育研究の目的と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の⑤※の能力とする。  
(※修得した専門知識と技術を駆使して栽培、林業、畜産の各分野の生産現場における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・整理する手法を理解している。)
- (2) プロジェクト研究では、共同による作成を認めない。なお、同一の研究目的・対象・方法による共同研究の場合は、学生各自が独自のテーマを設定し、重複しない内容にしなければならない。
- (3) プロジェクト研究の評価基準は、表1（別表1）及び以下のとおりとする。

#### 1) 取り組み姿勢(配分30点)。

プロジェクト研究に供する60コマ分の日程・時間及び研究状況等を指導教員と連絡調整し、逐次指導を仰ぐなど、自発的・計画的にプロジェクト研究に取り組んでいるか。

#### 2) 発表評価(配分30点)。

発表時間、発表態度、発表方法、発表内容、質疑応答は良いか。

#### 3) 論文評価(配分40点)。

テーマの設定が適切に行われているか、目的・材料及び方法が適切に明示されているか、先行研究の検討が十分に行われているか、引用や注記が適切に行われているか、プロジェクト研究論文作成要領を満たしているか、論証の過程や研究結果（図表含む）が明快で論理性が認められるか、要旨の内容が適切であるか。

表1 プロジェクト研究の評価基準

評価指標	評価基準					評価比率(%)
	期待している以上(5)	十分に満足できる(4)	やや努力を要する(3)	努力を要する(2)	相当の努力を要する(1)	
(取り組み姿勢)プロジェクト研究の意義を理解し、問題解決能力を高めるために自発的・計画的に取り組むことができる。	プロジェクト研究の意義を十分理解し、自発的・計画的及び積極的にしっかりと取り組むことができる。	プロジェクト研究の意義を理解し、自発的・計画的に取り組むことができる。	プロジェクト研究の意義を理解し、指導を得て概ね自発的・計画的に取り組むことができる。	プロジェクト研究の意義を理解できるが、指導を得ても自発的・計画的に取り組むことができない。	プロジェクト研究の意義が理解できず、指導を得ても自発的・計画的に取り組むことができない。	30
(発表評価)プレゼンテーションの手法を理解し、実行できる。	プレゼンテーションの手法を理解し、作成・発表および質疑応答・議論することが十分できる。	プレゼンテーションの手法を理解し、作成・発表および質疑応答することができます。	プレゼンテーションの手法を理解し、作成・発表することができます。	プレゼンテーションの手法を理解するが、ソフトを使用して明解に発表することができない。	プレゼンテーションの手法が理解できず、ソフトを使用した発表ができない。	30
(論文評価)課題の目的、材料と方法、結果及び考察について、論理的に成果をとりまとめることができる。	テーマの設定、目的、方法、図表、結果及び考察をしっかりと明示し、論理的にまとめることができる。論文としての価値が高い。	テーマの設定、目的、方法、図表、結果及び考察を明示し、論理的にまとめることができる。	テーマの設定、目的、方法、図表、結果及び考察を明示し、考察を明示し、まとめることができる。	目的、方法、図表、結果及び考察を明示することができるが、成果をまとめることができない。	目的、方法、結果、考察が明示できず、成果をまとめることができない。	40

## &lt;評点等&gt;

- (1) 各評価指標の結果を総合してS(100~90点)、A(89~80点)、B(79~70点)、C(69~60点)、D(59点以下)の評定をもって判定し、S、A、B、C、を合格とする。
- (2) 届出手続き、期間などの条件を満たさない場合は、不合格とする。
- (3) 他人の論文や作品の無断使用が認められた場合は、不合格とする。
- (4) 指導教員は、プロジェクト研究の評価を採点提出締切日まで提出しなければならない。
- (5) 指導教員が認めた場合、審査の途中で、学生に対して修正を求めるものとするが、採点提出締切日は遵守しなければならない。

なお、学生は、プロジェクト研究の開始時に「プロジェクト研究ルーブリック」（別表1）を理解し、指導教員によるフィードバックを受けながら、研究に取り組む際の指標とする。指導教員はプロジェクト研究の実施過程において発表や論文を指導する際に記入し、到達度を学生に逐次フィードバックする。

## &lt;表彰&gt;

- (1) 発表評価等に基づき、優秀賞を教務委員会で選考し、教授会に提案し決定する。
- (2) 総数で、6名まで表彰できるものとする(最優秀賞1名、優秀賞5名)。
- (3) 最優秀賞と優秀賞には、賞状と副賞(図書カード等)を贈呈する。
- (4) 表彰は、卒業式に行うものとする。

別表1

## プロジェクト研究 ルーブリック

学籍番号

(学生)氏名

記入日(学生)

(教員)氏名

記入日(教員)

学生はプロジェクト研究の開始時にルーブリックを理解し、指導教員によるフィードバックを受けながら、研究に取り組む際の指標とする。  
指導教員はプロジェクト研究の実施過程において発表や論文を指導する際に記入し、到達度を学生に逐次フィードバックするために用いる。

区分	評価項目	評価					自己評価	教員評価	評価(点)
		期待している以上(5)	十分に満足できる(4)	やや努力を要する(3)	努力を要する(2)	相当の努力を要する(1)			
取組	コミュニケーション(10)	教員や学生間で常に気持ちの良い挨拶ができる、教員との報告・連絡・相談を恒常的に行っている。	教員や学生間で気持ちの良い挨拶ができる、教員との報告・連絡・相談をよく行っている。	教員や学生間で挨拶ができる、教員との報告・連絡・相談を行なうことができる。	教員や学生間と挨拶をし、教員との報告・連絡・相談を行うよう努力すべきである。	教員や学生間と挨拶ができる、教員との報告・連絡・相談が行えない。			30
	活動(10)	活動日・時間を守りながら、集中して計画的に取り組んでいる。	活動日・時間を守りながら、よく取り組んでいる。	活動日・時間を守りながら、取り組んでいる。	活動日・時間を守っていないことが時々ある。	活動日・時間を守っていない。			
	ディスカッション(10)	指導教員と有意義な議論をいつも行なうことができる。	指導教員との議論をよく行なう。	指導教員との議論を時々行なう。	指導教員と議論を適切に行なえない場合がある。	指導教員と議論することができない。			
発表	話し方(5)	十分に明瞭な言葉を使って丁寧に説明しながら、熱意が伝わるなどのアピールがある。	ある程度明瞭な言葉を使い、丁寧に説明している。	一部に不明瞭な説明がある／もう少し丁寧に説明する必要がある。	説明が不明瞭である／説明の仕方に改善の余地が大きい。	説明が不明瞭である／説明の仕方を理解していない。			30
	スライド(5)	提示するデータや文字を注意深く選択し、ポイントが大変わかりやすい。	提示するデータや文字が適切で、ポイントを理解できる。	提示するデータや文字をおよそ適切で、ポイントをある程度理解できる。	一部のデータや文字を見直して、ポイントが理解できるように改善する必要がある。	提示するデータや文字を全体的に見直して、ポイントが理解できるようにする必要がある。			
	時間(5)	指定された時間に合わせて、発表時間を柔軟に調整できている。	指定された時間で発表を終えている。	おおよそ指定された時間を守ろうとしているが、若干ずれている。	指定された時間を守るために、スライド量の調整や発表練習が必要。	指定された時間が全く守られない。			
	成果の提示(5)	研究の成果を十分に説明し、その価値を良くアピールしている。	研究の成果と価値をよく説明できている。	研究の成果と価値をおおよそ説明できている。	研究の成果と価値の説明に不十分な部分がある。	研究の成果と価値の説明の仕方ができない。			
	論理性と客観性(5)	発表のテーマと流れが明確である。説明を論理的に展開し、説得力がある。	発表のテーマと流れを把握でき、論理的な説明を行っている。	発表のテーマと流れは把握できる。説明が論理的になるように若干工夫が必要である。	発表のテーマを明確にする必要がある。説明が論理的になるように修正が必要である。	発表のテーマが不明確／説明の論理性ができていない。			
	質疑応答(5)	質問内容を理解し、適切な回答と議論が十分にできる。	質問内容を理解し、適切な回答ができる。	質問内容を理解し、回答をすることができる。	質問内容は理解できるが、回答内容が不十分である。	質問内容を理解できない／回答できない。			
論文	誤字・脱字(5)	十分に良く推敲されていて、たしかに読みやすい文章である。	推敲されていて、読みやすい文章である。	誤字・脱字はないが、一部に修正したほうが良い字句がある。	誤字・脱字があり、著者による推敲が必要である。	誤字・脱字が多いへん多く、著者による大幅な推敲が必要である。			40
	要約(5)	背景・目的・結果・結論を全て含み概要を十分理解できる。	背景・目的・結果・結論を全て含む全体像を把握できる。	背景・目的・結果・結論を全て含むが全体像が若干把握できない。	背景・目的・結果・結論のいずれかが欠けている。	要約が無い「背景と目的」や「結論」と同じ文章である。			
	背景と目的(5)	背景・目的を参考文献を挙げながら、合理的にわかりやすく説明している。	背景・目的の説明を参考文献を挙げながら、説明している。	背景・目的の説明を参考文献を挙げながら、ある程度行なっている。	背景・目的の説明が不十分である。参考文献を参照していない。	背景・目的の記述が無い。			
	研究手法(5)	研究の手法をわかりやすく記述し、目的達成のための道筋が明らかになっている。	研究の手法をわかりやすく記述し、全体像と詳細まで示している。	研究の手法を記述し、全体像と詳細まで示している。	研究の手法の記述が不十分であり、全体像・詳細が不明である。	研究の手法の説明が無い。			
	図表と結果(5)	読者が理解しやすいように工夫され、本文で十分に説明している。	読者が理解できる図表で、本文でよく説明している。	読者が理解できる図表で、本文である程度説明している。	表現・体裁に問題がある。本文の説明が不十分である。	図表に誤りがある。			
	データの考察(5)	データに対する深い考察を行い、文献を引用して発展的に議論し、「目的」を十分達成している。	データに対する考察を行い、文献を引用して議論し、「目的」をある程度達成している。	データに対する考察を行い、「目的」をある程度達成している。	データに対する考察を行っているが、目的を達成するには不十分である。	データに対する考察が無い。			
	結論と今後の課題(5)	得られたことを漏れなく良くまとめ、「目的」に対応した結果を発展的に述べている。	得られたことを漏れなくまとめ、「目的」に対応した結果をよく示している。	得られたことを漏れなくまとめ、「目的」に対応した結果を示している。	得られたことを全てまとめていない。「目的」に対応した結果にならない。	結論が記述されていない。			
	引用文献(5)	論文の論旨を組み立てるために十分な量の参考文献を挙げて適切に参照している。	十分な量の参考文献を挙げてよく参照している。	参考文献の体裁は正しく、本文での参照方法は適切である。	参考文献の体裁や、本文・図表での参照方法が不十分である。	参考文献が不足している。本文・図表で参照していない。			

表2

No	職名 氏名	専門分野	キーワード	衝めたいテーマ	備考(研究場所等)
1	教授 竹内 隆	イチゴ栽培(イチゴの基本技術)	イチゴ、栽培、品種	イチゴ特性の品種間差異	学内ハウス
2	教授 竹内 隆	イチゴ栽培(イチゴの基本技術)	イチゴ、栽培、養水分管理	イチゴ定植後の養水分管理が成育と初期収量に及ぼす影響	学内ハウス
3	教授 竹内 隆	イチゴ栽培(あたらしい技術)	イチゴ、種子、特性	種子繁殖性イチゴの栽培特性	学内ハウス
4	教授 竹内 隆	イチゴ栽培(あたらしい技術)	イチゴ、種子、作業性	種子繁殖性イチゴの栽培作業性	学内ハウス
5	教授 竹内 隆	イチゴ栽培(技術習得)	イチゴ、技術習得、動画	イチゴ栽培技術の動画等可視化による教育的効果	学内ハウス
6	教授 竹内 隆	イチゴ栽培(経営)	イチゴ、経営、モデル	イチゴ栽培の経営調査と発展モデル	学内ハウス
7	教授 片山信也	畜産、乳製品加工	ヨーグルト 山羊	ハードタイプの山羊乳ヨーグルト調製の研究	校内実験室
8	教授 片山信也	畜産環境、臭気制御	海洋微生物 脱臭	海洋微生物の悪臭物質分解特性調査	校内実験室
9	教授 片山信也	畜産、草地造成	景観形成 グランドカバーパンツ	工場内管理困難用地の景観形成(調整中)	学外(磐田市下野部)
10	教授 小林信一	畜産経営学	牛乳・ヨーグルト、学校牛乳、	地元産乳製品のマーケティング	富士宮市
11	教授 小林信一	畜産経営学	地鶏、農福連携、	駿河シャモの生産から販売について	静岡県内
12	教授 小林信一	畜産経営学	ヤギ、ヒツジ、除草、乳製品、肉	綿山羊の活用と課題	静岡県内
13	教授 小林信一	野生動物管理・利用論	鳥獣害、下層植生、牧草、生物多様性	鹿など野生鳥獣害の実態調査	富士宮市など
14	教授 小林信一	野生動物管理・利用論	鹿肉、鹿皮、角、エコツアー	鹿などの資源利用について	富士宮市など
15	教授 稲葉善太郎	花き育種	マーガレット	マーガレットの交配組合せと形質の遺伝性	学内D2温室
16	教授 稲葉善太郎	花き栽培	マーガレット、冷房、LED、植物調節剤	夏季の環境条件ヒマガレット生育の品種間差	学内、C6、D2温室



No	職名 氏名	専門分野	キーワード	勧めたいテーマ	備考(研究場所等)
34	准教授 中根健	野菜栽培	育苗	紙ポットを利用した野菜育苗の検討	
35	准教授 中根健	メロン栽培	メロン、香り	県育成高香気系品種の品種特性調査	
36	准教授 中根健	メロン栽培	メロン、香り	県育成高香気系品種の栽培法の検討	
37	准教授 中根健	(野菜栽培)	(生育診断、ドローン)	(ドローンによる野菜の生育診断)	
38	准教授 中野敬之	茶・栽培	遮光ネット種類(4種類)、抹茶	遮光ネットの種類別に抹茶原料(てん茶)の収量と品質	磐田の茶園を使用。4月上旬に被覆、4月下旬～5月上旬に収穫。 秋季に茶研セでクロロフィル濃度検定。
39	准教授 中野敬之	茶・栽培	遮光ネット種類(2種類)、抹茶、品種	遮光ネットの種類と品種の組み合わせ別に抹茶原 料(てん茶)の収量と品質	磐田の茶園を使用。4月上旬に被覆、4月下旬～5月上旬に収穫。 秋季に茶研セでクロロフィル濃度検定。
40	准教授 中野敬之	茶・栽培	休眠、品種	休眠特性と品種間差異	磐田の茶園を使用。10～12月の休眠に入る時期の休眠程度について、品種間差を調査する。
41	准教授 中野敬之	茶・栽培	中切り、再生	中切り後の各種ホルモン散布と再生芽の生育	磐田の茶園を使用。一番茶収穫後に中切りした茶園において、オーキシンやサイカニンを散布して、再生芽の生育を調査する。
42	准教授 中野敬之	茶・栽培	近赤外分光法、品種	近赤外分光法による品種の適応	磐田の茶園を使用。一番茶で伴込み調査を行い、再生芽の生育を比較する。
43	准教授 中野敬之	茶・栽培	光合成、品種	光合成の品種間差異	磐田の茶園を使用。光合成測定装置を用いて、品種別の特性を把握する。
44	准教授 中野敬之	茶・栽培	光合成、栽培方法	栽培方法と光合成	磐田の茶園を使用。光合成測定装置を用いて、栽培方法による変化特性を把握する。
45	准教授 横田茂永	農業経営学・農業経済学	農業経営学・農業経済学	有機食品流通の課題と今後の展望について	静岡県内他
46	准教授 横田茂永	農業経営学・農業経済学	農業法人、非農家の新規参入	新規就農の支援体制の課題と今後の展望について	静岡県内他
47	准教授 横田茂永	農業経営学・農業経済学	農地の集積・集約化、販路の確保	一般企業の農業参入の課題と今後の展望について	静岡県内他
48	准教授 鵜飼一博	森林計画/経営	森林計画、森林調査	掛川市倉真・西郷地区における森林経営計画の作成に関すること	掛川市 都田演習林 現地調査(照度等)
49	准教授 鵜飼一博	森林計画/経営	間伐、森林調査、林内照度	間伐実施箇所の評価に関すること	
50	准教授 鵜飼一博	森林計画/経営	ニホンジカ、防鹿柵	防鹿柵設置箇所の巡視に関するここと	県内 現地調査

No	職名 氏名	専門分野	キーワード	勧めたいテーマ	備考(研究場所等)
51	准教授 鶴飼一博	森林計画/経営	森林認証	森林認証取得後における林業製材業の変化	県内アンケート調査等
52	准教授 鶴飼一博	特用林産	しいたけ	しいたけの菌床栽培に関するここと	大学構内ほか
53	准教授 鶴飼一博	樹木学 食品科学	栎の実	栎の実のアク抜き作業について	加工室、林業実習室 池ヶ谷講師と共同指導
54	准教授 鶴飼一博	樹木学 食品科学	ヤマモモ	ヤマモモの果実の色と味の関係について	加工室 池ヶ谷講師と共同指導
55	准教授 渡邊貴之	畜産、繁殖	牛、超音波画像装置、牛の卵巣動態	カラードプラによる電気血流量を利用した早期妊娠診断および受胎牛の選定方法の確立	畜産技術研究所または近隣農家(調整中)
56	准教授 渡邊貴之	畜産、繁殖、栄養	牛、超音波画像装置、血液生化学検査	牛黄体の血流量と栄養状態の関連性調査	畜産技術研究所または近隣農家(調整中)
57	准教授 渡邊貴之	畜産、繁殖、栄養	黒毛和種繁殖牛、血液生化学検査、採卵成績、飼料設計	採卵前後に血液を分析し、採卵成績に関する要因を調査する	畜産技術研究所
58	准教授 渡邊貴之	畜産、繁殖、栄養	黒毛和種繁殖牛、超音波画像装置、血液生化学検査	黒毛和種繁殖牛の分娩前後の栄養状態と子宮回復の関係を調査する	畜産技術研究所
59	准教授 渡邊貴之	畜産、繁殖	牛、体外受精	無血清培地を用いた体外受精培養系の確立	畜産技術研究所
60	講師 五十右薫	花き栽培	トルコギキョウ、育苗	トルコギキョウの育苗方法と定植後の生育	学内D6ハウス
61	講師 五十右薫	花き栽培	トルコギキョウ、二度切り栽培 培、植え替え栽培	トルコギキョウの二度切り栽培と植え替え栽培の違いによる生育・品質・収量比較	学内D6ハウス
62	講師 五十右薫	花き栽培	トルコギキョウ、二度切り栽培 培、仕立本数	トルコギキョウの二度切り栽培における適仕立本数の検討	学内D6ハウス
63	講師 五十右薫	花き栽培	ガーベラ、生育初期管理	ガーベラの定植後の株管理方法の違いと生育	学内D6ハウス
64	講師 五十右薫	花き栽培	切花、日持ち向上	切花類の日持ち性向上対策	学内現場教室
65	講師 五十右薫	花き栽培	切花、日持ち向上	切花類の栽培条件と切花品質との関係	学内D6ハウス
66	講師 五十右薫	花き栽培	切花、連続出荷	切花類のは種・定植時期と開花時期・切花品質との関係	学内D6ハウス
67	講師 増田壽彦	野菜分野	野菜・スイートコーン	スイートコーンの栽培技術と品種特性	校内圃場

No	職名 氏名	専門分野	キーワード	勧めたいテーマ	備考(研究場所等)
68	講師 増田壽彦	野菜分野	野菜・スイカ	スイカの栽培技術と品種特性	校内圃場
69	講師 増田壽彦	野菜分野	野菜・砂地土壤	砂地野菜栽培の特徴と導入作物	県内現地
70	講師 青山東一	畜産 加工販売	養豚 食肉加工	ハム等加工に取り組む農家直営の加工施設の実態 と可能性の検証	販売所・学内
71	講師 青山東一	畜産 加工販売	養鶏 食肉加工	鶏肉等の加工に取り組む農家直営の加工施設の実 態と可能性の検証	販売所・学内
72	講師 青山東一	畜産 販売販売	養鶏 鶏卵販売	鶏卵等の販売に取り組む農家直営の施設の実態と 可能性の検証	販売所・学内
73	講師 吉村親	食農教育	食農体験、教育効果	食農体験の参加者、指導者及び支援者等の学習過 程と意識変容	学外(フィールドワーク)、教員研究室
74	講師 吉村親	農村の地域づくり	食農体験、都市農村交流、交 流人口、関係人口、移住・定住	食農体験の実践が農村地域に及ぼす効果	学外(フィールドワーク)、教員研究室
75	講師 吉村親	農村の地域づくり	農家民宿、都市農村交流、グ リーン・ツーリズム、教育旅行	農家民宿が農村地域に及ぼす効果	学外(フィールドワーク)、教員研究室
76	講師 吉村親	農村の地域づくり	異業種連携、協働、都市農村 交流、活動の担い手	農村の地域づくりにおける中間支援組織の役割と活 動の継続性	学外(フィールドワーク)、教員研究室
77	講師 吉村親	新規就農	新規参入、就農相談、移住・定住、 就農前研修、農地、就農支援	新規参入による新規就農者の就農地選定から就農 及び定着過程	学外(フィールドワーク)、教員研究室
78	講師 吉村親	新規就農	雇用就農、独立就農、農地、 就農支援	雇用就農先から独立して新規就農するまでの過程	学外(フィールドワーク)、教員研究室
79	講師 吉村親	農業と福祉	農福連携、障がい者雇用、農 業経営団体、農業関連団体	農福連携が農業経営体(または、農業関連団体)に 及ぼす効果	学外(フィールドワーク)、教員研究室
80	講師 坂口良介	トマトの養液栽培	トマト 奈波栽培 高糖度トマ ト理障害 培地	高糖度トマト養液栽培における培地の違いが生理障 害に及ぼす影響	校内圃場(C1温室内)
81	講師 坂口良介	トマトの養液栽培	トマト 奈液栽培 高糖度トマ ト 生育診断	高糖度トマト養液栽培における生育診断手法の検討	校内圃場(C1温室内)
82	講師 坂口良介	トマトの養液栽培	トマト 無培地循環養液栽培 仕立て	トマト無培地循環養液栽培における仕立て法の検討	校内圃場(D3温室内)
83	講師 坂口良介	トマトの隔離土耕 栽培	トマト 隔離土耕 夏期 対策	夏期高温期における隔離土耕トマトの栽培手法の検 討	校内圃場(D3温室内)
84	講師 坂口良介	トマトの隔離土耕 栽培	トマト 隔離土耕 肥料	夏期高温期における隔離土耕トマトの施肥法の検討	校内圃場(D3温室内)

No	職名 氏名	専門分野	キーワード	勧めたいテーマ	備考(研究場所等)
85	講師 坂口良介	トマトの隔離土耕栽培	トマト 隔離土耕 誘引	隔離土耕トマト栽培における効率的誘引法の検討	校内圃場(D3温室)
86	講師 山家一哲	果樹栽培	早生ミカン、ジベレリン	プロヒドロジャスモン加用ジベレリンを利用した早生温州の完熟栽培	果樹ほ場・現場教室
87	講師 山家一哲	果樹栽培	ミカン苗木、LED	青色LED光によるウンシュウミカン幼木の早期育成	果樹ほ場・現場教室
88	講師 山家一哲	果樹栽培	ナシ、流通	収穫後二ホンナシの品質鮮度保持技術の開発	果樹ほ場・現場教室
89	講師 山家一哲	果樹栽培	柚、果皮色	ジベレリンを利用した花柚の熟期調整と鮮度保持	果樹ほ場・現場教室
90	講師 山家一哲	果樹栽培	シークワーサー、機能性	シークワーサーに含まれる機能性成分の効率的利用の検証	果樹ほ場・現場教室
91	講師 山家一哲	果樹栽培	キンカン、収量	摘果剤(ナフタレン酢酸)によるキンカンの大玉果生産	果樹ほ場・現場教室
92	講師 山家一哲	果樹栽培	キウイフルーツ、追熟	レインボーレッドの長期貯蔵技術の開発	果樹ほ場・現場教室
93	講師 山家一哲	果樹栽培	カンキツ、病害虫防除	マルチ被覆ヒカルシウム剤(ホワイトコート)の組み合わせによる病害虫被害軽減	果樹ほ場・現場教室
94	講師 山家一哲	果樹栽培	草生栽培、土壤管理	果樹園におけるナギナタガヤ草生(下草)栽培の多面的効果	果樹ほ場・現場教室
95	講師 山家一哲	果樹栽培	カンキツ、気候変動	気象データを利用した青島温州の隔年結果性(不作)の要因解析	果樹ほ場・現場教室
96	講師 星川健史	林業経営	無人航空機、ドローン、リモートセンシング	立木調査への無人航空機の活用に関する研究	大学演習林
97	講師 星川健史	林業経営	森林計測、GIS、施業プラン	効果的な施業プランに関する研究	大学演習林
98	講師 星川健史	森林計画	衛星、リモートセンシング	衛星画像を用いた広域森林計測に関する研究	大学演習林
99	講師 星川健史	森林保護	無人航空機、ドローン、リモートセンシング	森林病害虫の調査への無人航空機の活用に関する研究	海岸防災林(磐田市他) 広葉樹林(御殿場市他)
100	講師 星川健史	林業労働	言語化、技能、チーンソー	林業技能の習得効率化のための技能の言語化に関する研究	構内
101	講師 池ヶ谷篤	食品加工学	香り、水蒸気蒸留、精油	静岡県産農産物からの香りの抽出と活用	加工室

No	職名 氏名	専門分野	キーワード	勧めたいテーマ	備考(研究場所等)
102	講師 池ヶ谷篤	食品加工学	フェイクード(肉・チーズ)、SDGs	植物性原料を用いた代替肉、乳製品の開発	加工講義室
103	講師 池ヶ谷篤	食品加工学	糖、ジャム、イチゴ	原材料として用いる糖の甘味度がイチゴジャムの嗜好性に与える影響	加工講義室
104	講師 池ヶ谷篤	食品加工学	ジャム、甘み、柑橘	柑橘類の果皮の苦みを活かした「甘くない」ジャムの開発	加工講義室
105	講師 池ヶ谷篤	食品加工学	緑茶、フレーバーティー	静岡県産農産物を活用した新たなフレーバーティーの開発	加工講義室
106	講師 池ヶ谷篤	食品加工学	干し芋、加工条件	遠州特産干し芋の最適な加工条件の検討	加工室
107	講師 池ヶ谷篤	青果保藏学	わさび、長期保蔵	食品添加物を利用したわさびの長期保存技術の開発	加工室
108	講師 濑戸隆弘	飼料作物	秋播き、栄養分析、早期収穫	秋播き早期収穫型の麦の収量調査	学内圃場、畜産実験室
109	講師 濑戸隆弘	予防獣医療	群診療、牛のモニタリング(定期的な観察)	牛の外貌、乳成分モニタリングによる酪農場の分析	協力農場、教員室
110	講師 濑戸隆弘	家畜管理	生体情報モニタリング、反芻、行動量	反芻、行動量モニタリングデータからの牛群の分析	教員室、協力農場

## 短期大学部 プロジェクト研究指導教員 一覧

R3. 4. 1<敬称略>

コース	専攻	職位	氏名	専門	メールアドレス
栽培	野菜	教授	竹内 隆	イチゴ	
		准教授	中根 健	メロン	
		講師	坂口 良介	トマト	
		講師	増田 壽彦	露地野菜	
		講師	吉村 親	野菜	
	花	教授	稻葉 善太郎	花	
		講師	五十右 薫	花	
	茶	准教授	中野 敬之	茶	
	果樹	教授	杉山 泰之	果樹	
		講師	山家 一哲	果樹	
林業		教授	近藤 晃	林業	
		准教授	鵜飼 一博	林業	
		講師	星川 健史	林業	
畜産		教授	片山 信也	畜産	
		教授	小林 信一	畜産経営	
		准教授	渡邊 貴之	畜産繁殖	
		講師	青山 東一	畜産	
		講師	瀬戸 隆弘	畜産	
その他		准教授	横田 茂永	経営	
		講師	池ヶ谷 篤	食品加工	